

新武蔵野クリーンセンター（仮称）合同意見交換会（第1回）  
議事要録

日時 平成22年6月28日（月）午後7時00分～午後9時45分

場所 クリーンセンター3F 見学者ホール

出席 **委員会** 田村和寿委員長、大江宏副委員長、越智征夫委員、狩野耕一郎委員、  
早川峻委員、高橋健一委員、橘弘之委員、金子和雄委員、新垣俊彦委員、  
佐々木保英委員、上原文夫委員、小酒井恵詞委員、  
（協議会兼任）石黒愛子委員、渡部敏夫委員

**協議会** 小澤紀美子会長、高橋豊委員、村井寿夫委員、藻谷征子委員、千綿澄子委員、  
木村文委員、島森和子委員、高石優委員、飯村雅洋委員、山崎君枝委員、平田昭虎委員、  
岡田敬一委員、事務局（木村浩クリーンセンター長、和地稔課長補佐他）  
コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他）

傍聴者5名

欠席 （委員会）荒井喜久雄委員、安井龍治委員  
（協議会）水谷俊博副会長、塩澤誠一郎委員

配布資料

【資料1】第1回合同意見交換会資料（本編）

【資料2】第1回合同意見交換会資料（煙突高さについて）

【資料3】新武蔵野クリーンセンター及び周辺整備についてのご提案

1. 基本計画策定委員会、施設・周辺整備協議会の委員紹介

事務局より基本計画策定委員会委員、施設・周辺整備協議会委員の紹介。

2. 基本計画策定委員会、施設・周辺整備協議会の検討状況

事務局より基本計画策定委員会、施設・周辺整備協議会のこれまでの検討状況について説明。

- ・ **委員長** 基本計画策定委員会（以下、委員会）では、施設そのものを考えることが役割であるが、我々はどこまで本当に信頼できるのかということを大切に検討を行っている。地域の問題は、施設・周辺整備協議会（以下、協議会）だけの話ではなく、委員会でも内包している。本日、また新しい議論ができると感じている。市民参加で技術的なことを決定していくことは非常に難しい。委員会では、クリーンセンターを迷惑施設としてではなく、地域に喜ばれる施設となるよう考えている。一方で、迷惑施設として地域から切り離したいという議論があることも承知しているが、プラスの施設として考えて融合していきたい。また、最後に委員会、協議会から提出するランドデザインについて、委員会から出すものはある程度決着が可能なものであるが、協議会から出すものはいろいろな形で実現性が問われてくる。この実現性を担保するために、武蔵野市が全庁的に対処できる体制が取りうるのか危惧している。我々の検討結果を行政、議会がどこまで追い続けられるかが課題である。
- ・ **副委員長** ハードを検討する委員会に出席しているが、私自身は素人であり、素人なりに疑問を持ち、判断を行っている。このように素人的な視点から技術の問題を見ていくというこ

とが、市民目線として非常に大切であると感じている。この武蔵野方式とも言うべき協議会と委員会の並行体制において、委員会では技術指向、コスト効率指向な点がある一方で、施設トータルで考えた場合には、協議会で出た要望のような足湯などが必要となる。NIMBYとはいかないのが、今日的な考えであり、それを協議会・委員会で相互に受け止め、意見交換を深めていくことが重要である。

- ・ **会長** クリーンセンターを迷惑施設として捉えるのではなく、清掃工場として住民にきちんと認識いただいたうえで、自分たちの問題として受け止めてもらうということを前提として協議会でも検討を行っている。ワークショップを行った際に出た「どう時間をデザインするか」ということが重要である。また、地球温暖化の問題に対応すべく低炭素社会のモデル地域として、武蔵野市全体だけでなく日本全国に発信できるような考え方をしていきたい。ごみ減量は、市役所の仕事だという発言があったが、市役所だけでなく住民全員の問題でありきちんと対応しなくてはならない。スケジュール上は、協議会は遅れているように写るが、じっくり協議会委員と検討を行っている。

委員長に司会を交代し、双方の意見交換を実施。

- ・ **委員** 前提となるごみ量が、平成 19 年度の 35,000t から 5,000t の減量とあるが、平成 21 年度末で 33,000t まで削減されていると聞いている。実際には、どのようになっているのか。
- ・ **事務局** 33,000t を割り、32,500 ~ 32,600t 程度であり、減量・資源化は順調に進んでいる。ただし、事業系のごみが減量しているという事実もあり、経済状況によるものであるのか分析が必要である。また、家庭系のごみについては住民の地道な努力により、徐々に減量している。
- ・ **委員** 煙突高さは、プラント設備における重要な要素であり、まずは耐震などを含めた構造的な安全、安心が担保されないと高さを決定できないのではないかと。豊島清掃工場は煙突高さが 230m あるが、それはサンシャインの高さに因っている。そのように様々な要素があるため、今日ここで即決というわけにはいかないのではないかと。
- ・ **委員** 排ガス規制値については、委員会のほうで最も厳しい値で設定することが方向付けられた。一方で、今の時代には地球温暖化対策という新たな問題が発生しており、その要求にいかに対応するか議論が必要である。ただし、委員会としては議論を重ねてきており、今度は協議会の方で景観について議論して、煙突高さ、白煙防止について決定していかなくてはならないと考えている。12 月の実証実験をする前には、市民に分かりやすいイラストの入った資料を作れるように協議会の方からもお知恵を拝借したい。
- ・ **委員長** 煙突高さの資料を先に説明いただいたほうがよいと考えるがどうか。
- ・ **委員** 煙突資料については、委員会でも十分に議論がまとまっていない。その段階で協議会へ提示することは混乱を招くと考えられるため、今回は見送っていただきたい。
- ・ **事務局** 煙突高さに関する景観の問題、圧迫感の問題、デザインの問題は、委員会、協議会の共通事項であり、問題認識を持っていただきたい。また、本日結論を出すというわけではなく、委員会、協議会が共通認識を持ったうえで、意見のすり合わせができれば十分であると考える。煙突高さの資料は、説明させていただきたい。
- ・ **委員** 了解した。構造的な話は、委員会ですることとし、具体的な高さの話というよりは、検討内容を簡単に紹介いただく程度にさせていただきたい。

事務局より煙突高さについての説明。

- ・ **委員** ふじみ衛生組合の実績を持っているということか。
- ・ **委員長** 技術論としての結論は先の話となるが、煙突高さを解くうえでどのような方程式があるかということについて委員会、協議会で議論を深めるといふことにしたい。
- ・ **委員** 排ガス処理設備が進歩し、煙突を必要としない時代になってきていると考える。そんな中で見栄えやシンボルという機能を付加する形で、高い煙突を作るといふ考え方はいかなものか。
- ・ **委員** 公害規制値を最も低くするということは、委員会の中で議論を行った。この規制値は、装置だけによるものではなく、排出する煙突高さにも因っており、煙突を高くすればするほど周辺への影響が小さくなる。この点を理解いただきたい。また、高さが 60m を超えると、航空法などの規制が加わるため 60m 未満という数字が一つの目安となる。一方で、隣のふじみ衛生組合では、武蔵野と同じ 10ppm という規制値を設定しながらも、煙突高さは 100m と設定している。その実績データを確認したうえで、高さを設定する必要がある。私見であるが、煙突はできる限り高くし、少なくとも近隣施設と同等の高さには設定したい。
- ・ **委員** 武蔵野市の財政を考えると煙突をやたらと高くすることはできないなど委員会の委員としては自制しながら検討を行っているつもりである。一方で、協議会の委員として、公害が出ないことを前提であるが、また、市民にクリーンセンターを認識いただくにはどうしたらよいかを考えると、煙突をシンボルとすることも考えられる。非常に悩ましい問題である。減量は、行政の責任であるとのことであるが、行政だけでなく、市民、事業所も努力してなくてはならないということを目に見える形で提言していくためにも、委員会・協議会のような市民参加の場は必要であると考えている。
- ・ **委員** 近年、武蔵野市においても建物の高層化が目立ってきている。さらに高い建物が増えることも考慮して、煙突高さは決定しなくてはならない。
- ・ **委員** 環境のために煙突は高いほうがよいという議論は承知しているが、日常煙突を見ている住民からすると、現在よりも高い煙突ということになれば、理屈では説明できない抵抗を持たざるを得ない。一方で、逆にクリスマスイルミネーションなど煙突を利用することで、地域のシンボルとすることもできるのではないかと考えており、複雑な心境である。
- ・ **委員** 私見としては、安全運転が担保されれば、拡散は完全である必要はないと考える。これまでの仕組みとしては、ハードで一定程度まで公害を抑制したうえで、安全運転についても監視を行うことで、フェイルセーフを実現してきている。今後、現在検出できていない微粒子物質の問題が発生した際に、どこまで対応できるかが問題である。煙突の件は、意見を完全に一致させるのは難しいと考える。建物が高くなっているのは確かであるが、一方で、地元としてこれ以上の高さの煙突に対する抵抗感があるのも確かである。そのあたりを委員会、協議会が両輪で検討していく必要があると考える。
- ・ **委員** 煙突に関しては、費用など様々な要素があると思うが、地元住民に対する説明が必要である。現在の景色が今後何十年に渡って変わるといふことに対して、抵抗があると思われる。私見であるが、必要がなければそこまで高くして欲しくない。必要であるならば、容認するが、その場合には、今回のような数値や難しい言葉による説明ではなく、もっと住民にとって受け止めやすい説明が必要である。また、個人としては、シンボル化してあまり華美な煙突よりも落ち着いて魅せられる煙突にしていきたい。

- ・ **委員** 「環境を大事にクリーンセンターをつくりましょう」というのは、全員が納得していることである。これをプラス思考で考えれば、環境面でできるだけ武蔵野市に貢献できるようなものをつくるのが重要であり、その方策の一つが煙突のデザインではないか。煙突が立っているんだということを武蔵野市から全国に発信できるような煙突を作りたいという気持ちになるような説明ができればよいと考える。100メートルくらいの煙突がたったうえで、計画デザイン的にできる地域の計画もあるのではないかと考える。
- ・ **副委員長** ふじみ衛生組合の議論では、当初より煙突は100メートルが、安全のため絶対条件であった。拡散濃度のシミュレーションでは、80メートルも100メートルも大きな違いはなく、コストを考えれば80メートルでも十分ではないかと考える。安全第一という視点に立った場合には、HClの10ppmというのはどのような数字であるのか。もっと低く設定することも高く設定することも可能であり、人体への影響についてももう少し分かりやすく説明してもらいたい。
- ・ **委員** 国が定めている基準値よりも1桁違う自主規制値を設定しようとしており、どうしてそこまで低い値に設定する必要があるのか明確にする必要がある。また、武蔵野市の施設は他施設に比べて非常に小さいが、煙突だけ大きいというのはバランスが取れていない。専門家の委員によれば、煙突高さ設定の基準は特になく、周辺建物高さの2.5倍を目安になるとのことであった。武蔵野の自主規制値と施設規模を考えれば、59メートルで全く問題ないと考ええるが、2.5倍の75メートルあたりが妥協点になるのではないかと考えている。
- ・ **委員** 武蔵野クリーンセンターの施設は、小規模であり、そこに高い煙突を作ることに疑問を感じる。小規模な施設であれば、排ガスの量も少ないわけで、排ガスの量、濃度によって自ずと高さは決まってくると考えている。委員会という役割において、経済性や環境への影響を考えれば、自ずと終着点は見えているが、煙突は、周辺住民の感覚、感情の問題があり、絶対的な答えは見つからない。委員会としては、ある程度理論的に議論を行っていくが、協議会としては住民感情を大切にする必要があり、そのあたりの落としどころを見つけていくことが、焦点になると考えている。
- ・ **委員長** 委員会としては、煙突論は十分に行われていないと考えている。その段階でこういった議論を行えるのは、非常に有意義であると考えている。所長より、煙突についてどういふことを提起するのかお話をいただきたい。
- ・ **委員** 議論において、白煙の問題があまり扱われていない。健康には問題ないとしても心理的な側面から、少し高いところに白煙があった方がよいという意見も考えられる。
- ・ **委員** 今後、技術的に59メートルよりもさらに低くし、またダウンウォッシュを改善する装置などが実用化されることはないのか。
- ・ **委員** 100メートルなど煙突を高くすると、今度は耐震、耐風といった問題を感じる。高ければ高いほど公害対策としてはよいということであるが、この説明を事務局よりいただきたい。

### 3. 煙突高さについて

事務局より一般論としての煙突高さについて説明。

- ・ **委員** 210 で20m/sで59メートルの煙突から排出した場合には、どのくらいの高さまで上昇するのか。
- ・ **事務局** 計算上は、75メートル程度である。

- ・ **委員** 59メートルの煙突であっても75メートルと同等ということであれば、100メートルにする必要はないという考えにたどり着く。
- ・ **事務局** 現施設においては見えないが、透明なものがそういう形で上がっていると認識いただいて構わない。
- ・ **委員** 白煙に害がないということは、運営協議会において度々市側から説明をいただき我々は認識している。しかし、今回実際白煙が見える場合には、どのように感じるか非常に不安がある。そのあたり分かりやすいデータで説明いただく場を持ってもらいたい。
- ・ **委員長** この議論は、ここで結論がでるものではないが、委員会と協議会において何を問いかけて、答えていくべきかははっきりと見えたと考えている。今後もこういった話し合いの場において、互いに意見を出し、議論を成熟させていきたい。
- ・ **委員** 自治会の役員が集まる場において、委員会における白煙防止の話をしたところ、きちんと話を聞きたいという気持ちになっている。本当に公害として問題ないということであれば、実験の話や団体に持ち帰り、意見を収集したうえで、またこの場に臨みたいと考えている。
- ・ **委員** 我々も定期的に住民への説明は行ってきている。拡散シミュレーションにおける0.00002ppmという数字など現実離れた数字となっており、頭にイメージができない。皆に納得いただくためには、どの程度の数字であるのか、具体的に説明できるよう準備いただきたい。電気集じん器からバグフィルターに変更する際に、同様な説明を住民に行い、大変苦労したが、今回も同様の説明が必要であると考えている。
- ・ **委員** この場で煙突を眼前にされている方の多くの方がいらっしゃるが、協議会の方々は煙突を現在の場所で議論している。昨年の議論において、レイアウト等も検討した結果、煙突の位置が動くことになっている。それを明確にした上で、イメージの議論をするべきではないか。
- ・ **会長** 協議会では建物の形は全然ないという前提で議論を行っている。イメージは各自が持っているが、特定の場所に限定していない。事務局もそのことを理解していると考え。決まっているのであれば、すぐに提示いただきたいが、協議会の前提は決まっていないこととなっており、出ていない以上は、各個人のイメージの議論でよいと考える。煙突がずれることは承知しているが、建物が今ここにあることを前提にしなければ、ごみ焼却はできない。そこはきちんと認識いただきたい。
- ・ **委員** 周辺の状況が分からなければ、煙突が周辺に調和するなどの議論はできないのではないか。
- ・ **会長** それは協議会で実施し、描いてもらうように考えている。
- ・ **委員** 緑化ゾーンの中にクリーンセンターを作るという大前提がある。部分的なイメージだけでなく、グラウンドやテニスコートを含めてイメージができないと考えており、そのためには敷地の面積や高さ程度は必要ではないかと考えている。
- ・ **会長** 理解した。
- ・ **委員** 市長は、現在あるエリアから野球場のほうにはクリーンセンターは入らないことを確約している。それを踏まえて、議論の位置づけを行ってほしい。
- ・ **委員** 市が出している住民説明案は、素人には分かりづらい。ろ過装置の絵を柔らかくするなど基本数値は正確にしたうえで、平易にしてもらいたい。

- ・ **委員** 煙突高さとコストの関係を示す資料を提示いただきたい。単純に倍になるわけでもないであろうし、そこまでして高くするものかの判断材料にしたい。
- ・ **委員** 今後新たな物質や、基準が発生した場合に対応できる高さを確保しておく必要があるというのも議題の1つと考えている。
- ・ **委員** 10ppm という規制値があったが、それが 10.5、9.5 だとういった問題が発生するのにかきちんと説明をいただきたい。白煙については、無害であることを周知徹底するにはかなりの時間が必要となるため、徹底した啓蒙が必要である。
- ・ **委員長** 10ppm といった数字には、現実感が必要である。分かるものは、できる限り明確にすることを最大限優先していきたい。
- ・ **委員** 煙突に限らず、今後我々の子ども、孫がこの地域に住むことを考えると、安全は何よりも大切である。煙突は、高さだけでなく見栄えなどトータルの部分で考えていきたい。安全を考えたうえで、デザインを決めていき、皆が誇れるようなクリーンセンターになればと積極的な気持ちで臨んでいる。
- ・ **委員長** 委員会としても技術的観点から、結論を押し付けるようなことは考えていない。こういった技術的な委員会を市民参加で実施するのは、非常に難しい。それを実現するためにも、行政は委員会、協議会委員を含め、逐一説明いただきたい。
- ・ **事務局** 委員会、協議会、行政と共通認識ができたということは、非常に有意義であった。しかし、委員会の方では今後不燃・粗大の議論、協議会の方ではワークショップをまとめていくこととさせていただき、その間に事務局では皆さまにきちんと説明できるよう準備したいと考えている。今後、生活環境影響調査の段階で、合同意見交換会の回数を増やす、部会を設けるなど考えたい。
- ・ **委員長** 非常に大切な問題であるため、とことん議論いただき、納得いく結論を得てすすめていきたい。
- ・ **委員** 協議会メンバーについても白煙の実験には参加させていただきたい。
- ・ **事務局** 参加は全く問題ない。また、運協だよりの配布範囲をアンケート対象区域と考えていたが、アンケートを配布して欲しいエリアを指定いただければ、そのように対応する。
- ・ **委員長** 時間がないため、傍聴者からの意見は割愛させていただきたい。
- ・ **会長** 行政への信頼、協議会・委員会の相互信頼なくして、こういった議論は成立しない。データ等々の提示や記号や用語など一般の方が理解しづらいものに対する説明など分かりやすくということを真摯に受け止め、努力いただきたい。

委員長より閉会挨拶。

閉会